

## 1. 研究の全体構想

### 学校教育目標

生命を尊び、自主と創意にみちた

人間性豊かな児童を育成する

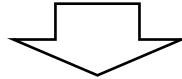
目指す円山っ子像

たくましい子 考える子 働く子 思いやりのある子

### 教育界の方向

主体的・対話的で深い学びの実現

- ・知識・技能の習得
- ・思考力、判断力、表現力等の育成
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養



### 研究主題

夢に向かって、たくましく生きる円山っ子  
～探究的な学びを追求するための課題設定～

## 2. 研究主題について

### 夢に向かって、たくましく生きるとは

- ・ になりたい自分を思い描き、主体的に行動する。(夢や目標をもつ)
- ・ 自分の良さや可能性を認識する。(自己を生きる)
- ・ 他者を思いやり、認め、尊重する。(他者と生きる)
- ・ 多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、これからの社会の創り手となる。  
(社会を生きる)

### 探究的な学びとは

日常生活や社会を広い視野で捉え自己の生き方やあり方を考えながら、自ら課題を設定し、その課題と向き合う中で情報収集や整理・分析を行い、さらにはそれをまとめたり表現したりすることを繰り返すことで、自分自身の課題や思考が更新され続ける学び。

子どもたちがこれから生きる社会は、AI（人工知能）やVR（仮想現実）、メタバース（3次元仮想空間）などが現実と溶け合う全く新しい社会に向かうとも考えられている。このような予測不可能といわれる時代を生き抜いていかなくってはならない子どもたちに必要な「学力」とは何か、教師とともに将来を創出していこうとする姿勢が重要だと言える。

本校では、研究主題「夢に向かって、たくましく生きる円山っ子」のもと、昨年度は自ら課題を立て解決策を探ろうとする姿により迫るため、課題解決型学習である「探究的な学び」の手法を教科横断的に取り入れ、「課題をもつ」－「調べる」－「深める」－「表現する」という過程の中で、自ら課題を見つけ、考えを広げ深めていく活動に重点を置いた研究に取り組んできた。令和5年度の学習状況調査結果から、本校の子どもは、自ら課題を見付け、その解決のために自主的に学習に取り組む力が弱いことが分かつ

た。それは、探究の四つの過程のうち、どこを重点的に、研究を進めるのかが学年によって異なっていたため、本校の研究を深めることが出来なかったと考える。

そこで、今年度は、総合的な学習の時間を軸に置き、教科横断的な教育課程の編成を行っていく。総合的な学習の時間は、子どもが課題をもち、自ら問題解決する姿を見ることが出来る教科である。そのため、どの学年の、どの教科でも取り組みやすいように総合的な学習の時間を軸に据え、各教科の既習内容を接続していきたい。総合的な学習の時間で学んだことや身に付けたことを各教科で活用したり、各教科の内容を総合的な学習の時間に応用したりできないか、一年をかけて検証していく。

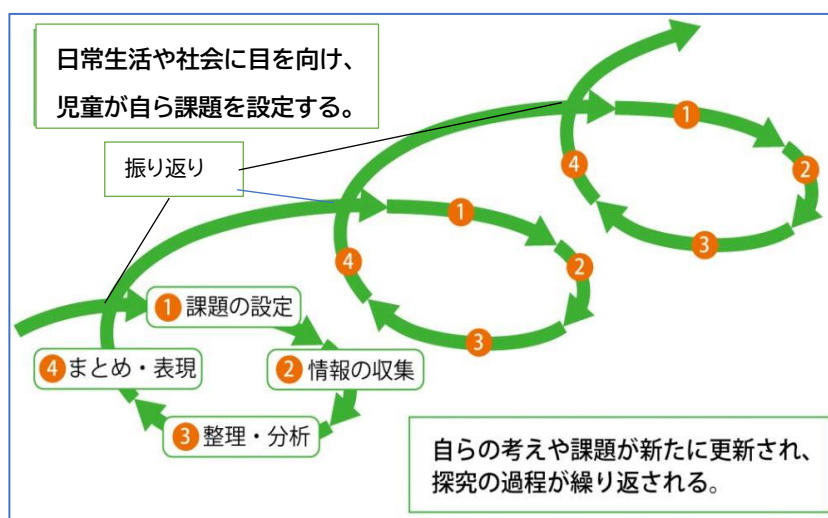
また副主題を「探究的な学びを追求するための課題設定」とし、探究的な学びの四つの過程のうち、「課題をもつ」に焦点を当てて授業改善に努めていく。課題設定を工夫することで、子どもたちが主体的に学ぶ場とはどういうものか、そのために、どのように授業を展開していくとよいかなど研究を深めることができると思う。総合的な学習の時間はもちろん、各教師が総合に限らず、様々な教科で「児童が主体的に取り組んでいけるような課題設定」に取り組んでいきたい。

### 3. 今年度の研究構想



参考資料：文部科学省

### 探究的な学習における児童の学習の姿



### 探究的な学びの質を高める環境づくり

#### ○伝えたい思いを高める設定

心が動く体験活動  
社会とのつながり  
社会課題への関心  
伝える「人」「もの」「こと」  
「場」の多様性

#### ○安心して過ごせる学級づくり

話しやすい雰囲気づくり  
何でも話せる信頼づくり  
聞く力づくり

#### ○言葉の力の涵養

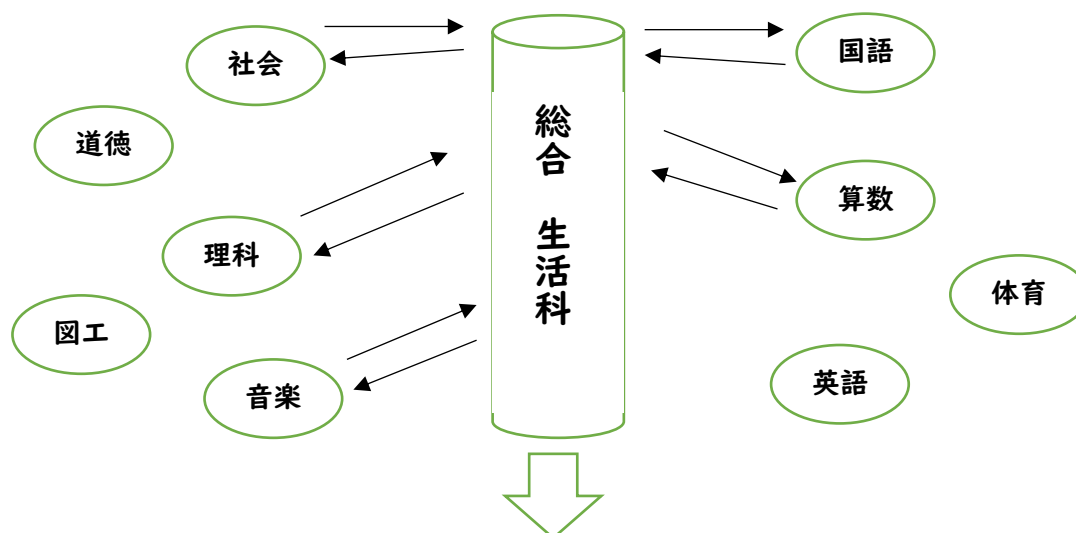
学びや体験、実感の言語化  
話し合い活動  
読書活動  
(自由読書、調べ学習)

#### ○伝え方の工夫

内容構成  
読み方、話し方、書き方  
ICTなどのツールの活用

#### ○教師の関わり方

- 1 インストラクター  
：教える
- 2 ファシリテーター  
：引き出す
- 3 ジェネレーター  
：一緒に参加する
- 4 メンター  
：背中を押す



| 学年 |                              |
|----|------------------------------|
| 1  | 生活科の内容から選ぶ                   |
| 2  | 生活科の内容から選ぶ                   |
| 3  | 食べ物のおもしろさとそれを生活の豊かさに生かす人々（食） |
| 4  | 身近な地域の高齢者、障害者と暮らしを支援する人々（福祉） |
| 5  | 身近な自然環境をいかして、地域を活性化する人々（環境）  |
| 6  | 身近な地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々（地域）  |

【探究的な学びの4つの段階】 ※今年度重点的に研究を進める内容を太線で示す。

|                 | ◎ポイント ○例                                                                                                                                                   |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①課題の設定          | ◎教師の教材開発、考えの整理（マインドマップなどの思考ツールの活用）、仮説、計画<br>◎問題と課題の違い：あるべき姿と現実の状況とのギャップが「問題」で、その問題を解決するために具体的にに取り組むことが「課題」<br>○体験活動、写真やグラフ等の資料、リハーサル、意見交換、KJ法、対象への憧れ、ウェビング |
| ②情報の収集          | ◎調査の手順、情報リテラシー<br>○図書資料、インターネット、観察・実験、アンケート、電話、メール、手紙、インタビュー                                                                                               |
| ③整理・分析          | ◎因果関係の整理（思考ツールの活用）反対意見や多角的な視点<br>○グループワーク、ディスカッション、ディベート                                                                                                   |
| ④まとめ・表現<br>振り返り | ◎発表の場の設定（異学年、保護者、地域、他校等）、<br>自分の目標に照らした次につながる振り返り<br>○プレゼンテーション、動画、ポスター、新聞                                                                                 |

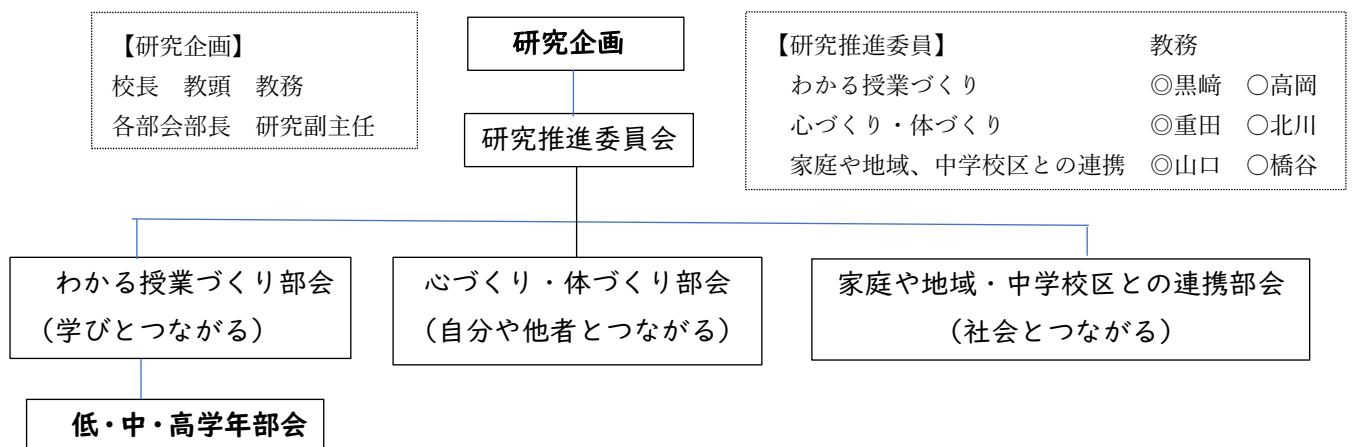
<探究的な学びを可能にする教師の関わり方の例>

※「分かりやすい」形で提示するだけでなく、「分からない」「難しい」ことそのものを楽しめるように手助けする。

| 探究の段階     | 問題と課題設定              | 課題解決の仮説を立てる                                                  | 計画の実施（実行とフィードバック、考察）                        |
|-----------|----------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 児童に望む姿    | 素直に正確に物事を吸収する        | 現状や常識にとらわれずに新たに仮説を立てる                                        | 持続的に検証を行う                                   |
| 教師の役割     | インストラクター             | ファシリテーター<br>ジェネレーター                                          | メンター                                        |
| 教師の関わり方   | 情報を正確に収集・分析するために指導する | 人と違っていても楽しみながらアイデアをあふれさせる                                    | 行動を後押しする                                    |
|           | 誰でも自由に意見が言える雰囲気づくり   | 自分の探究以外との関連も探しながら、視野を広げてアイデアを洗練させる                           | よりよい未来を意識させる言葉がけをする                         |
| 具体的な声かけの例 |                      | 「どうしてそう思ったの？」<br>「もう少し詳しく教えて」<br>「それ面白いね」<br>「他に～もあるけど～はどうか」 | 「やってみたら？」<br>「きっとできるよ」<br>「これができれば～になりそうだね」 |

#### 4. 研究組織

スクールプランをもとに、「わかる授業づくり」、「心づくり・体づくり」、「家庭や地域、中学校区との連携」の3つの部会を柱に推進する。



## 5. 研究の主な内容と方法

| わかる授業づくり部会                                                                                                                                                                 | 心づくり・体づくり部会                                                                                                                                                                                                                        | 家庭や地域・中学校区との連携部会                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○探究的な学びを学年で計画立案（５月）実践の集約（１０月、２月）</p> <p>○総合的な学習の時間、生活科を軸に教科横断的な教育課程の編成（年間指導計画への表記）</p> <p>○各学年、支援学級での提案授業（低・中・高学年部会で指導案検討と事後検討会）</p> <p>○全国学力調査結果を考察（研究・国語・算数・理科主任）</p> | <p>○教科担任制を取り入れ、子どもを多面的に捉え指導や支援に生かす。（複数の目でみる。）児童理解の共有化と支援体制の充実。</p> <p>○「おやくそく１０」（年３回）、円山小独自のスマートルールの実施を通して基本的生活習慣の定着を図る。</p> <p>○アンケート「心元気かな」を毎月行い、いじめや不登校の早期発見と未然防止を図る。</p> <p>○人権教育の推進</p> <p>○体力向上を図る運動の習慣化</p> <p>○保健指導の充実</p> | <p>○家庭や地域に関わる活動の再構成（生活科、総合、行事等）</p> <p>○キャリア教育の推進</p> <p>○中学校区で連携した教育活動の実施</p> <p>○スタートカリキュラムを活用した園小接続の推進</p> <p>○異学年交流の企画・運営</p> |

## 6. 研究の検証

- ・各部会で、各学年の取組を学期末にまとめておく。年度末に各部会で取組についての成果と課題を話し合う。２月の全体研究会で各部会の取組を発表し、共通理解を図る。
- ・学校アンケート項目の結果をもとに各部会の重点目標を検証する。